

(Lonely Night Gathering)

さみしい夜の句会報 第152号 (2024.1.12-2024.1.21)

- ◆ 参加者：しまねこくん、雪の空ゆきのそら、虚見津山都、古城エツ、Suzuki 温ぬる、睡密堂、石川聡、水の眠り、おかもとかも、風ちひろ、西脇祥貴、いずみ、しろとも、石原とつき、西沢葉火、海馬、soudo 守宮、傾自郎、朝森たけ、ダリア 20、花野玖、汐田大輝、小沢史、片羽雲雀、山羊の頭、蔭一郎、りゅうせん、菊池洋勝、うつわ、みさきゆう、さー、相馬絵梨子、霞らい、のはるん、雪夜書屋、馬勝 Tasuo Kanase、まつりへきん、透影弦、エミリー・メープル・ボーン、池田突波、佐竹紫田、Tomo、岡村知昭、やは、涼閑、かきもちり、唯有(ゆう)、宮坂菱哲、酔名、東ころ、あまおと、白石ポピー、らつくん、まつもともとこ、キニー・コーヴェル、月波与生(五八名)

◆川柳・俳句

眠れない熊が来てゐるお買物 しまねこくん  
新成人たちまち石にする呪文 しまねこくん  
冬眠を許可して貰ふ診断書 しまねこくん  
嘘ばかり吐く路面電車がすれ違ふ 海馬  
愛日のそらを甘噛みするおんな 蔭一郎  
数式のどの分母にも籠猫 蔭一郎  
犯人は亀になり損ねた君だ 岡村知昭  
ふたりまで観覧していい動物 やは  
跳ねる ぼくには遠くがみえる臉 やは  
一月やひとの喧嘩をただ見てる Tomo  
正夢をマヨネーズから搾り出す 汐田大輝  
極道の骨から中央フリーウェイ 汐田大輝  
品書ぎに載らない夜を歩いてる しろとも

アとウの音が出ない口笛を吹く しろとも  
星空がもつと必要埋めるには *seio* 守宮  
味の無いおむすび市民体育館 まつりぺきん  
底冷えの子宮を研いでレル・ラレル 片羽雲雀  
リヤカーを引くモノクロの同業者 雷  
メレンゲドール踊り疲れてラ変体 りゅうせん  
ジャガイモのガレット風のラ変体 りゅうせん  
ふぐちりや函館港で消えたひと 傾自郎  
大寒のためらい傷を撫でている 傾自郎  
腰椎は白紙のままでもいいですか いずみ  
ではここで五臓六腑に乗り換えます おかもとも  
牛のごと吊るされ焼肉屋のコート 池田 突破

\*

石段の雪にころぶな初大師 *syusyū*  
雨よりも雪よりも紙屑がいい 睡密堂  
浮沈浮沈の筆先ぐらし 石川聡  
金字塔銀字塔背のびをする中島みゆき 西脇祥貴  
泣き虫のアイデンTT 西沢葉火  
うぬぼれるほど愛されてない大寒 *ダリア* 20  
白き頬透き通りゆく寒の雨 花野玖  
眠る子の右耳の痣冬苺 小沢史  
唾付けておけば治ると寒見舞 菊池洋勝  
死にたくなったらきみを呼んでみるよ うつわ  
ちりとりで掬いきれない月末や 相馬絵梨子  
空冴ゆる遠の夜景も吸われよう 雪夜彗星  
初芝居猪木がない国技館 馬勝  
豆柴がオオカミになるダンシングシヴァ *Tatsuo Kanase*  
待ち合わせ同じメニュー笑ったね 山羊の頭  
父逝きて仰いだ空に冴ゆる星 佐竹紫田  
まっさらの白紙さみしい時もある 涼閑  
すぐにタグを忘れる かきもちり

それなりにロクでもない人生だった 宮坂愛哲  
金曜日見知らぬ人のふりをする 東こころ

\*  
どの色で描くか真冬の「あったかい」 月波与生

◆ 短歌

「趣味は復讐かな」ちよūd遊星はベーコンはまぎれ込む  
孤独 石原とつき

旅にでる時にだけにする腕時計ひんやりとして深呼吸誘う  
古城えつ

レシピなど誰も知らないありあわせ囲んでやがて家族にな  
った 水の眠り

味のないこんにやく好むわたくしはささやかな良さがわか  
る大人に 水の眠り

妻として母として生きてきたけれどその寄る辺なさ一艘の  
舟 水の眠り

冷えきつたカイロをごみ箱に入れるおそらくそんな感じの  
別れ 虚見津山都

自転車にうしろを向いて乗っている。どこに向かっている  
んだろうね 海馬

急坂も我が家の跡も失言も平らに均す航空写真 さー

明日、目が覚めても部屋が真つ暗で傾いた陽が泣いてたら  
やだな 透影弦

侘助は殺してしまおうかと思う毎年思う誰も知らない 白  
石ポピー

\*  
「今度行く」待つのをやめた日と思う今あの頃の君に会  
たい 雪の空SORA

動かしづらい身体でもなんとかかんとか風呂に入れる幸  
せだ温(ま)

五月雨に君のくれにし言の葉の断片をまだ胸に持つてる  
凧ちひろ

人になどとても言えない恋をして心の奥にそっと仕舞って  
朝森たけ

ソプラノの冬は透明サンザシのくいは抜けないままだとし  
ても みさきゆう

冷風に肩をつぼめて散歩道時を忘れず咲く梅の花 のはる  
ん

舐めるたびあたしの顔を赤らめる冷えた君って最高のよ  
エミリー・メープル・ボーン

星仰ぐ あなたが選んだこの道に守られたものを両手で捧  
げ 唯有

クリスマス、年末年始もわが辞書には休肝日という言葉は  
あらず 酔名

◆詩・短文

掲載はありません。

◆作品評から

人になどとても言えない恋をして心の奥にそっと仕舞って  
朝森たけ

〜切ないです…

でも、秘めたる恋って良いですね

「心の奥にそっと」に切なさや背徳感を覚えます

素敵…(あまおと)

妻として母として生きてきたけれどその寄る辺なき一艘の  
舟 水の眠り

　　～涙がでちゃう（山羊の頭）

侘助は殺してしまおうかと思う毎年思う誰も知らない 白  
石ポピー

　　～侘助は、私の中では 原田芳雄さんなので できれば助  
けてほしい…（らつくん）

泣き虫のアイデンT T 西沢葉火

　　～「」が顔文字の涙って、狙いましたね！（まつもとも  
とこ）

ソプラノの冬は透明サンザシのくいは抜けないままだとし  
ても みさきゆう

　　～静かに佇む白い冬の世界の中に赤い色、声のようなピ  
アノの弦を小さく弾いたような綺麗な高い音がメロディを  
刻んでいるような情景が浮かんでとても好きです…！！

（キニー・コーヴェル）